

令和7年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	67	豊田市立 新盛小 学校	代表	倉知 高子
------	----	-------------	----	-------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、その他（ ）】から選ぶ。

テーマ	未来を見つめて、よりよい地域や自分のあり方を追究する子どもの育成	分野	e	学力向上
	サブテーマ 「新盛学習」とコミュニケーション能力を高める活動を通して	i(その他)は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点 (ねらい)	本校は、恵まれた自然に囲まれた環境にあるとともに、地域づくりに取り組もうとする地域の動きが活発である。この地域の「ひと・もの・こと」を活用した「新盛学習」（生活科及び総合的な学習の時間）において、地域愛、追究力、未来観、社会性を6年間で系統的に育成する。 また、次代を担う人間に必要なコミュニケーション能力を、一行詩創作、暗誦、スピーチ活動をはじめとして、各教科の授業において段階的に育成する。さらに、一輪車やなわとび、耐久走といった体づくりを行うことで、基本的な体力の向上も目指していく。 上記の内容を達成するために、学校補助員を配置する。 ・小規模校で児童・教職員が少なく、環境整備に手が行き届かないため、新盛学習にかかわる敷地内の整備や学校園の整備を中心に、校内整備員の力を借りる。 ・体力向上指導員による効果的な指導で児童の体力や意欲の向上を図る。			
活動内容・計画	【新盛学習】 ・1、2年生 A新盛探検：学区で活動する人々との出会い。（学区探検の実施） B新盛の四季：学区の季節の変化を植物や生き物から感じる。（学区散策2回、足助散策の実施） ・3、4年生 A新盛の森林：学区の森林に関する営みを間伐から学ぶ。（森林調査、木の調査、間伐体験の実施） B新盛の生き物：学区の生き物に関わる営みを獣害対策やジビエから学ぶ。（生き物調査、農地調査、ジビエ体験の実施） ・5、6年生 A新盛の史跡：学区の人の営みの歴史を学ぶ。（史跡調査、資料館訪問、講師招聘の実施） B足助の歴史：足助地区の人々の営みの歴史を学ぶ。（足助調査、資料館訪問、講師招聘の実施） ・全学年 稲作体験 田植えと稲刈りの体験（市民農園すげの里の活用） ・全学年 感謝の会 地域の方を招待し、協力に感謝を伝える会の実施 ・全学年 新盛学習発表会 新盛学習の成果を発信する。 【コミュニケーション能力育成の取組】 ・暗誦 毎日の暗誦、校内発表会、入学式、学芸会 ・一行詩 週1回の創作、学校行事ごとの創作、年2回の集会 ・季刊一行詩集「やまもも」に一人一作品を掲載し、年4回、学区全世帯へ配付。 ・「一行詩ホルダー」を作成し、学区全世帯へ配付。 ・1年間のまとめとして、文集「やまもも」を作成し、全家庭へ配付。 ・毎週木曜日の「お話集会」で、全校児童が年間1回のスピーチ活動を実施。話し合いを、教師および児童の司会により実施 【体力向上の取組】 ・体幹の強化に努めるため、全校で一輪車、なわとびに取り組み、検定を実施。 ・体育科における日常的な一校一実践の実施。 ・体力向上指導員による効果的な実践の取組。			
補助員配置	・体力向上補助指導員（一輪車検定、なわとび検定、基礎体力の向上） ・校内整備員（日常的な整備活動）			
実績・期待される効果	【新盛学習】 1・2年生は、A年度では、新盛学区探検で様々な分野で活動する人々に出会い、B年度は、野菜作りを含め、新盛の四季や季節の変化を植物や気候から感じることで、地域への深い愛情をもつことができると考える。（地域愛） 3・4年生は、A年度で新盛の森林：学区の森林に関する営みを間伐から学び、B年度で新盛の生き物：学区の生き物に関わる営みを獣害対策やジビエから学ぶことで、課題に切実感をもち、自ら追究することができると考える。（追究力） 5・6年生は、A年度は新盛の史跡：学区の人の営みの歴史を学び、地域や自分のあり方を考え、B年度は足助の歴史：足助地区の人々の営みの歴史を学び、地域や自分のあり方を考えることができると考える。（未来観） 全学年が稲作体験を地域の方々と行い、地域愛をもつことができる。そして、新盛学習のそれぞれでお世話になった地域の方を招待した「感謝の会」で未来観を養い、これらの新盛学習のまとめを発表する会では、仲間とともに追究してきたことを地域に発信し、社会性を育成することができると考える。 【コミュニケーション能力育成の取組】 暗誦活動と一行詩創作活動は、取組を始めて27年目を迎えた。暗誦は元々よく動作の工夫を取り入れた楽しい発表ができるようになったことから、さらに日本語の美しさやリズムの良さを感じながら思いを込めて暗誦できるように、新たに暗誦の観点をもって活動を行う。一行詩創作でも、楽しんでつくる姿が見られているので、表現したい言葉を「ことばノート」に蓄積、活用しながら表現力を高める。スピーチ活動では、今までの取組からさらに目標を具体的に設定することで、「話す・聞く・話し合いの能力」育成につなげる。 【体力向上補助指導員の取組】 児童の体力向上や意欲向上のために、全学年の体育の授業でTTとして、模範演技や技能習得のポイント説明や運動の補助を行っている。担任は、専門的な指導を間近に見て体験することにより、体育授業の指導のヒントを得ることができる。一輪車の取組では検定を実施し、より上級を目指すことで、児童の体力や意欲の向上が見られ、体幹の強化にもつなげる。			
検証方法	【新盛学習】 各学年の生活科、総合的な学習の時間に、活動の様子や学習の様子を観察したり、記録カードで検証したりする。また、新盛学習発表会での発表により検証する。 【コミュニケーション能力育成の取組】 それぞれの取組において、設定した目標・めざす子どもの姿・手立てをもとに検証する。一行詩は創作の様子や作品を検証する。暗誦は発表の様子、お話集は話し合いの内容や方法を協議して検証する。 【体力向上補助指導員】 体育の授業で、子どもの様子を見たり、振り返りカードや一輪車検定やなわとび検定などの技能レベルや体力テスト等のデータを活用したりして、体力向上へとつながったかを検証する。			